

平成 27 年度第 3 回 草津市上下水道事業運営委員会

日 時 : 平成 27 年 9 月 2 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 30
場 所 : 草津市役所 4 階 行政委員会室
委員出席者 : 山田委員長、小竹委員、小寺委員、佐野委員、田中文子委員
田中佳子委員、西谷委員、馬場委員、平井委員

(議事要旨)

1. 開会

委員全員の出席を報告し、事務局により開会を宣言した。

2. 上下水道部長挨拶

西岡上下水道部長より挨拶

委員の皆さまにおかれましては、公私何かとお忙しい中、草津市上下水道事業運営委員会に御出席いただき、厚くお礼申しあげます。

さて、本日の委員会では、前回に引き続きまして、経営計画の見直しについて御説明させていただきます。また、前回までの合計 3 回にわたり御意見をいただきました「草津市水道ビジョン中間見直し案」につきましては、明日から 1 か月間パブリックコメントの募集をさせていただきます。

本日が、経営計画を協議いただく最後の委員会となっておりますので、専門的な立場、また、使用者の立場から、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申しあげまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

3. 委員の紹介

滋賀県琵琶湖環境部下水道課の小竹委員の紹介を行った。

4. 報告

(1) 前回の会議概要について

前回の会議概要について御確認いただき、公開することについて了承を得る。

(2) 草津市水道ビジョン中間見直し(案)について

水道ビジョン中間見直し案について、委員長より市長へ答申を行っており、9 月 3 日より 1 か月間、パブリックコメントの募集を行う。市民から寄せられた意見については取りまとめて、報告を行うことを事務局より説明した。

5. 議事

(1) 経営計画の概念図、公営企業の経理、補てん財源、利益積立金、当年度利益推移

事務局より経営計画の概念図、公営企業の経理、補てん財源、利益積立金、当年度利益推移についてスライドを用いて説明した。各委員の質疑応答は以下の通りである。

■質疑応答

【委員】スライド 6 の補てん財源で積立金が複数ある一方でスライド 5 では利益が積立金となっている。積立金は 4 種類書かれているがどのような経緯で発生して積み立てられているのか確認したい。

【事務局】スライド 6 にある補てん財源は種類が利益積立金、減債積立金、建設改良積立金および損益勘定留保資金の 4 種類を挙げている。利益積立金、減債積立金および建設改良積立金についてはスライド 5 の左側にある利益を介して積立金に積み立てたもの。損益勘定留保資金は、スライド 5 では左側の減価償却費を介して貯まったものである。

【委員】利益のうち利益積立金、減債積立金および建設改良積立金はどのような方針で 3 つの積立金に分けているのか。

【事務局】近年の積立の方針として、利益の 1/20 を減債積立金とし、翌年の企業債の返済に充てている。建設改良積立金は過去に行った積み立て分であり H22 現在で約 5 億円残っていたが H23、24 にかけて利用し使い切った。残りの利益については利益積立金に積み立てている。

【委員】H26 に建設改良積立金が発生している理由は何か。

【事務局】H26 の利益は決算の予定額である。1/20 は減債積立金、残り 19/20 の多くは今後増加が見込まれる建設更新需要に対応するため建設改良積立金のほうに積む予定である。このため一時的に建設改良積立金が発生している。

【委員】H26 の利益処分に伴う積立金は利益積立金を増やすことなく、減債積立金および建設改良積立金に振り分けるのか。

【事務局】そのとおりである。

【委員】その考え方は、H26 からは利益積立金分が建設改良積立金に変更になったのか。

【事務局】そのように変更しようと考えている。

【委員】スライド 7 の利益積立金実績にある H25、H26 および H27 の青い数字はすべて同じなのか。H26、H27 の利益からは利益積立金を増やすわけではないのか。また利益積立金を取り崩す予定もないということか。

【事務局】そのとおりである。

【委員長】H22～25 まで利益積立金が増えているのは何が要因なのか。

【事務局】会計制度の変更による影響は H26 のみ。それ以前については計画よりも利益が出たことによるもの。

【委員長】 H22～25 まで積立金が増えているのは経費節減が大きな要因となっているのか。可能性として予定していた工事が執行できない場合でも同様の結果となるのではないのか。

【事務局】 工事の不執行はなかった。計画よりも利益が出た大きな要因としては、競争入札を行っているため予定額と落札額に差が生じ、利益として出ている。

【委員】 入札の差額は維持管理費用や委託料の部分なのか。それとも、建設改良事業の減価償却が減っているためなのか。

【事務局】 維持経費の部分では、予算ベースより入札時には差が生じている。また計画時に予定していた工事に従事する市職員数も、市全体の割振りの中で要望どおり職員数が確保できなかったり、あるいは想定していた賃金層よりも安い職員が従事するといったことから経費に差が生まれ利益となっている。

【委員】 H25 までは利益積立金、H26 からは建設改良積立金ということであったが積立の方法はどういった形で決まったのか。また、もともとは利益積立金として積み立てていた理由は何か。

【事務局】 1/20 の減債積立金は法定積立金である。利益積立金については、出た利益の使い道を当時の議会で利益積立金として積み上げることが妥当だと判断したため。H26 は会計基準の改正により見かけ上の利益が大幅に増加するため利益積立金ではなく、今後必要となる建設改良積立金に処分することとしている。

【委員】 会計基準の変更により利益は大きくなるが、減債と建設工事費に充当する損益勘定留保資金が小さくなるため、利益処分に伴う積立金の一部は名前を変えて減ってしまう損益勘定留保資金をカバーする配分に変更するという考えなのか。

【事務局】 そのとおりである。

【委員長】 元金償還は進んでいるのか。企業債の借り入れに義務的なものはあるのか。

【事務局】 主な借入先は政府資金や地方公共団体金融機構が多数を占めているが、繰り上げ償還には保証金が必要になる。今のところ繰り上げ償還は考えていない（この保証金と今後支払う利息の比較は行っていない。）

【委員長】 減債積立金の資金は次の起債を減らすという意味合いなのか。

【事務局】 減債積立金は企業債の返済の財源として利用している。

【委員】 6 ページの補てん財源のところ H25 から H26 にかけて補てん財源が減少しているが、利益は増えている。これは会計基準の変更に伴い、利益は増加したが、積み立ての位置づけを変更し、建設投資の補てん財源として利用したという理解でよいか。

【事務局】 おっしゃるとおりです。

【委員長】 他事業体の水道会計を見ると、公的なものであるため安全側に見積もる傾向がある。そのため当初計画よりも利益が発生する構造となっている。

【委員】 商売をしている者としては、計画より実際の人件費が安くなったということが驚きである。

【事務局】市役所全体で人事異動が行われるため、水道での計画通りの人員を割り当てられない場合がある。また、年齢構成を考え賃金の高い職員を想定していたとしても実際には賃金の安い職員が従事することがある。さらに競争入札を行っている関係で予定していた価格よりも安く落札されることがある。

【委員】資料がわかりにくい。もう少し分かりやすく説明をお願いしたい。

【事務局】公営企業の会計は長い目で見てどうなるかを重視している。そのため各種の積立金を設定し、目的以外には使えないようになっている。

【委員長】公営企業は民間企業のように利益分配をやっていない。

【委員】水道事業は儲かっているのか。また以前に水道料金を下げたような計画はあるのか。

【事務局】基本的に公営企業は儲けを出さないようにし、事業を将来にわたって維持することを目的としている。ただ、今回の計画では予想以上に利益が出たため 10%還元を行っている。しかしながら、10%還元を将来にわたって実施していくかは今後の判断である。

(2) 財政シミュレーション (案)

事務局より財政シミュレーションの結果についてスライドを用いて説明した。各委員の質疑応答は以下の通りである。

■質疑応答

【委員】借金の方法はコントロール可能なのか。こういった状況にあるのか。シミュレーションでは借金が増えることを前提としている。

【事務局】借金は市民の世代間の負担の公平性という観点で今後も借り入れる予定であり、草津市では借金の限度額を給水収益の 4 倍までとしていきたい。

【委員】借金が 20%増加していることに対して何らかの説明ができたほうがよいのではないか。

【委員長】借金の返済は 30 年、パイプの減価償却は 40 年、実際のパイプの使用年数は 60 年と複雑な状況である。

【委員】人口は減るが借金が増えると 1 人当たりの借金負担額が増える。あまり次の世代に持ち越さないほうがよいのではないか。そのために還元は早くやめたほうがよいのではないか。

【委員長】給水収益の低下は人口の減少と節水機器の普及による一人当たりの使用量の減少がある。これは分けて考える必要がある。

【委員】10%還元を行っている草津市の水道料金は安いと感じるべきなのか。消費者代表としては水道料金の値上げしなくてももらいたい。

【事務局】水道の供給には水道法というものがあり、その第 1 条には低廉であることが求められている。したがって、極力低廉な料金で事業を運営していく考えである。

- 【委員】極力借金を減らして身を軽くしておいたほうがいいのか。
- 【委員】還元をやめて災害に備える、復旧が早くなるように金を貯めるという考え方もあるのではないか。
- 【事務局】復旧が早いことも重要であるが、被災時に破損しないことが大切であるため順次耐震化を進めている。
- 【委員】宅内配管の耐震に関する指導はないのか。
- 【事務局】水道事業では、復旧に時間のかかる管を優先して耐震化を行っているが、そこまで重要度の高くない管路はその都度復旧するという考え方をしている。
- 【委員】H42に人口のピークがあるが、以前の予測とは異なっているのではないか。
- 【事務局】市の一般部局で予測を行っている結果へと整合を図っている。
- 【委員】意見として、借金は少ないほうが良いと思う。また、利益積立金の適正な規模を整理して説明することも必要ではないか。
- 【委員長】水道技術に関係しているものとしては、水道料金を下げるよりも借金の返済や耐震化を進めるほうが良いと考えている。
- 【事務局】これまでの委員会で得られた意見を事務局で吟味する。下水道の経営計画についてはまたあらためて議論いただく予定である。

6. 理事挨拶

西村上下水道部理事より閉会の挨拶

前回から運営委員会で審議いただいていた重要案件である上水道経営計画見直しの財政シミュレーションなどの考え方について、前回に引き続き長時間にわたり慎重なる御審議をいただきありがとうございます。

また、先月の8月7日には、委員の皆さまに審議検討をいただいた「草津市水道ビジョン中間見直し案」について、山田委員長より市長に対し、答申をいただき重ねてお礼申し上げます。

経営計画につきましては、将来を見据えた経営の基本的な取り組みを示した指標であり、本日いただいた貴重な御意見を参考にさせていただき、事務局において検討をさせていただき、刻々と変化する社会情勢や生活環境の変化等に適時対応できるよう意識をもって、次世代につなげるよう、より健全で安定した経営につなげてまいります。

本日の運営委員会をもちまして、審議をお願いしておりました水道ビジョンと経営計画の見直しについては、一旦終了させていただきますのでよろしくお願いいたします。

今後の運営委員会の審議予定につきましては、先ほども説明しましたとおり、来年度に計画している下水道事業の経営計画策定にかかりまして、委員会を開催し、皆さま方の御意見をいただく考えでございますので、何卒お力をいただきますようよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

7. 開会

事務局より閉会を宣言した。